

— 株主の皆様とのコミュニケーションツール —

クラレ通信

第135期
2015年1—6月期 報告書
2015年1月1日～2015年6月30日

CONTENTS

- 1 … 株主の皆様へ
- 2 … 業績ハイライト
- 3 … 2015年度第2四半期決算概況
／2015年度通期業績予想
- 5 … [特集1]
久川カンパニー長インタビュー
- 7 … [特集2]
社会貢献活動のご紹介
- 9 … クラレグループトピックス
- 11 … 財務情報
- 13 … 株式情報
- 14 … お知らせ
- 巻末 … 会社概要

株式会社 クラレ

2015年度第2四半期について



代表取締役社長 伊藤 正明

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間(2015年1月1日~2015年6月30日)の経営環境は、日本経済は設備投資や個人消費に持ち直しが見られるなど緩やかな回復基調が続きました。世界経済は、米国は雇用情勢や個人消費も底堅く好調であったものの、欧州ではギリシャ問題等もあり、景気回復に力強さが見られませんでした。中国経済は成長鈍化が顕在化し、新興国経済はまだら模様といった状況でした。2014年度終盤から続いた原燃料価格下落に伴う原燃料コストの低下は、一部の事業では販売価格の調整を余儀なくされましたが、当第2四半期連結累計期間の業績においてはプラスに働きました。

このような状況において当社グループは「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学企業」を実現すべく、今年度よりスタートした中期経営計画「GS-STEP」において掲げた経営戦略を順次実行しています。

当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は前年同期比37,802百万円(16.8%)増の262,877百万円、営業利益は3,795百万円(13.6%)増の31,605百万円、経常利益は4,687百万円(17.1%)増の32,160百万円、四半期純利益は5,208百万円(33.1%)増の20,931百万円と増収増益になりました。

2015年度通期の業績については、第2四半期連結累計期間が原燃料価格下落によるコスト低下等を背景に全体として順調に推移したことから業績予想を上方修正し、売上高5,400億円、営業利益660億円、経常利益660億円、当期純利益400億円を見込んでいます。

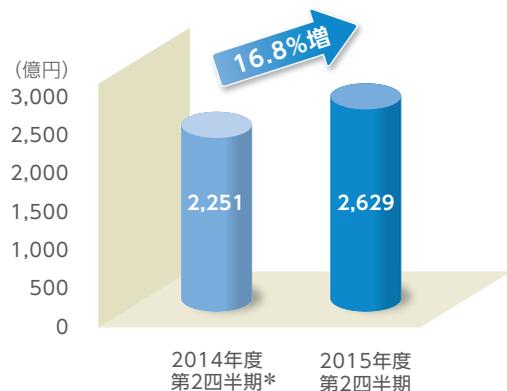
また、当社は株主に対する利益配分を経営の重要課題と位置付け、2015年度から2017年度の中期経営計画「GS-STEP」期間中においては、持続的な業績向上を通じた利益配分の増加を基本方針とし、連結当期純利益に対する総還元性向35%以上、1株につき年間配当金36円以上としています。中間配当金は期初予想通り18円とさせていただきます。当期の年間配当金については、予想当期純利益400億円を前提に40円(配当性向35.1%)とさせていただきます。期初は予想当期純利益360億円を前提に36円、第1四半期決算発表時には予想当期純利益380億円を前提に38円を予定しておりましたので、期初予想からは4円の増配、第1四半期決算発表時からは2円の増配となります。なお、今年6月に自己保有株式28百万株を消却いたしました。

皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

伊藤 正明

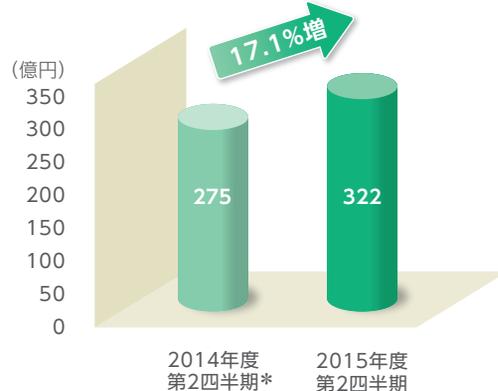
2015年度第2四半期業績ハイライト

売上高



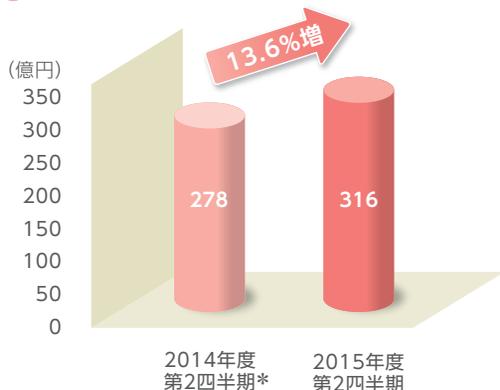
売上高は**16.8%増の2,629億円**になりました。

経常利益



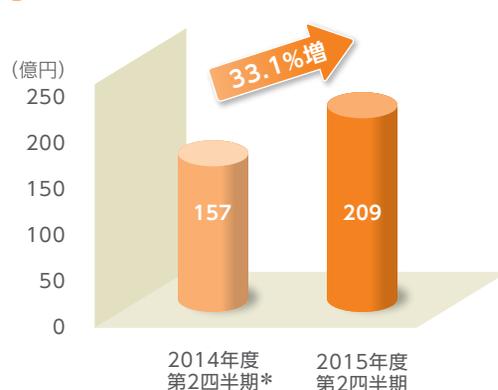
経常利益は**17.1%増の322億円**になりました。

営業利益



営業利益は**13.6%増の316億円**になりました。

四半期純利益



四半期純利益は**33.1%増の209億円**になりました。

* 当社は2014年度より決算期末を3月31日から12月31日に変更いたしました。比較のため、2014年第2四半期は2014年1月～6月に補正した数値を示しております。

2015年度第2四半期決算概況

金額表示は、億円未満を四捨五入しております。

当社の15年度第2四半期の業績は、売上高、営業利益、経常利益、当期利益の全てにおいて、前年同期を上回る結果となりました。また、半期ベースで売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てで過去最高を更新しました。

●決算概況

(億円)

	2015年度上期	2014年度上期*	増減	期初予想
売上高	2,629	2,251	+378(+16.8%)	2,650
営業利益	316	278	+38(+13.6%)	280
経常利益	322	275	+47(+17.1%)	275
当期純利益	209	157	+52(+33.1%)	170
各種前提				
円/ドル	120	103	-	120
円/ユーロ	134	140	-	130
国産ナフサ価格(千円/kl)	52	71	-	52

●セグメント別売上高・営業利益

(億円)

	2015年度上期		2014年度上期*		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
A ビニリアセテート	1,384	265	1,025	249	359	16
B イソプレン	285	34	277	32	8	2
C 機能材料	283	25	259	9	24	16
D 繊維	238	21	248	17	△10	4
E トレーディング	602	20	573	18	29	2
F その他	336	13	339	13	△3	0
調整額	△499	△62	△470	△60	△29	△2
合計	2,629	316	2,251	278	378	38

*当社は2014年度より決算期末を3月31日から12月31日に変更いたしました。比較のため、2014年上期は2014年1月～6月に補正した数値を示しております。

●セグメント別の状況

A ビニリアセテート

光学用ポバールフィルムは液晶パネルの数量増および大型化により販売量が増加しました。ポバール樹脂は概ね堅調に推移したものの、米国新プラント建設工事遅延もあり米国での市場開拓が想定どおりに進みませんでした。PVBフィルムは欧州域外への輸出拡大により堅調に推移しました。水溶性ポバールフィルムは旺盛な需要を背景に好調に推移しました。

EVOH樹脂(エバル)は、販売は堅調に推移しましたが、米国での定期修理の影響を受けました。2015年4月にバリア素材のリーディングカンパニーとして更なる拡大を図るため、バイオマス由来のバリアフィルム事業を展開する、オーストラリアのPlantic Technologies Limitedを買収しました。GLS事業は、のれん代等償却費の影響により赤字となりました。なお、事業統合が順調に進捗したことから、既存のビニリアセテート事業とのシナジーの早期発現と最大化を目的に2015年7月1日付でGLS事業部内のVAM(ビニリアセテートモノマー)、ポバール関連事業をポバール樹脂事業部へ、またPVBB関連事業をPVB事業部へ移管し、GLS事業部を廃止しました。

2015年度通期業績予想

B イソプレン

イソプレン関連では、ファインケミカル、熱可塑性エラストマー〈セプトン〉および液状ゴムは堅調に推移しました。

耐熱性ポリアミド樹脂〈ジェネスタ〉は、自動車用途の数量増等により順調に推移しました。

C 機能材料

メタクリルは、樹脂の販売増により収益が拡大しました。

メディカルは、歯科材料の販売が好調でした。人工皮革〈クラリーノ〉は、既存プロセスの中国移管等の事業構造改善効果に加えて新プロセス品の拡販が進み、黒字が拡大しました。

D 繊維

高付加価値品へのシフトにより順調に推移しました。

E トレーディング

繊維関連事業、化学品関連事業ともに順調に推移しました。

F その他

その他事業は、エンジニアリング事業でのプロジェクト案件が前年同期に比べ減少しました。

当第2四半期連結累計期間は、原燃料価格下落によるコスト低下等を背景に全体として順調に推移したことから、その結果を反映し、以下のとおり通期の連結業績予想ならびに配当予想を修正することとします。

●2015年度通期業績予想

(億円)

	今回予想	期初予想	増減
売上高	5,400	5,400	-
営業利益	660	630	+30
経常利益	660	620	+40
当期純利益	400	360	+40

前提としている下期の平均為替は米ドル120円、ユーロ130円、国産ナフサは55千円/kgです。

●2015年度セグメント別予想

(億円)

	売上高			営業利益		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
A ビニルアセテート	1,384	1,476	2,860	265	285	550
B イソプレン	285	315	600	34	51	85
C 機能材料	283	297	580	25	25	50
D 繊維	238	242	480	21	19	40
E トレーディング	602	598	1,200	20	20	40
F その他	336	374	710	13	17	30
調整額	△499	△531	△1,030	△62	△73	△135
合計	2,629	2,771	5,400	316	344	660

●2015年度配当金について

40円/株 予定 (中間:18円、期末:22円)

「GS-STEP」期間中の利益配分

- 総還元性向: 35%以上
- 一株当たり配当金: 36円以上

2015年6月 自己株28百万株を消却

「バリア材カンパニーを目指して」～〈エバル〉事業の拡大、「GS-



取締役・常務執行役員
ビニルアセテート樹脂カンパニー長 久川 和彦

Q1 〈エバル〉の主な用途を教えてください。

〈エバル〉は1972年に当社が世界に先駆けて事業化したプラスチックの中で最高レベルのガスバリア性を持つ樹脂です。酸素を遮断して内容物の劣化を防ぐことからマヨネーズやケチャップをはじめとする各種食品包装材に広く使用されています。またプラスチック製ガソリタンクに採用され、揮発ガソリンの漏えい防止や自動車の軽量化に貢献しています。建築分野では、床暖房用パイプや、汚れのつきにくい壁紙などにも使用されています。また工業分野では、冷蔵庫やジャーポットなどで使用される真空断熱板などに採用されるなど、様々な分野で需要が広がっています。

Q2 〈エバル〉事業のグローバル展開について教えてください。

当社の中でもコア事業である酢ビチェーン事業(酢酸ビニルモノマーを原料としたポバール、〈エバル〉などの製品群)はグロー-

バル展開が進んでいますが、〈エバル〉事業は中でも最も早く海外に進出した事業です。初期の食品包装用途が先進国中心に拡大したことから、1986年に米国、1999年にはベルギーでの生産を開始しました。その後も積極的な投資を継続し、現在の生産能力は日本10千トン/年、米国47千トン/年、ベルギー24千トン/年となっています。今後も〈エバル〉の世界需要は拡大する見込みで、今年2月にベルギーで+11千トン/年の能力増強(2016年末稼働予定)を決定しましたが、次の増設についての検討も始めています。

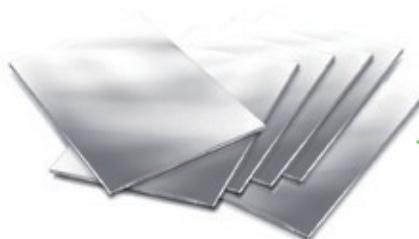
また、近年需要の伸びの著しいアジアにおいては、中国およびシンガポールには販売および技術サービス拠点を、タイとインドには販売拠点を設置し、市場開拓を進めています。



▲ 〈エバル〉を使用した食品包装材
食品の長期保存やパッケージの軽量化などに貢献



▶ 〈エバル〉を使用したプラスチック製ガソリタンク
軽量化、省スペース化などに貢献



◀ 〈エバル〉を使用した真空断熱板
冷蔵庫の大容量化などに貢献

Q3 Plantic社買収のねらいは？

この買収は、「独創性の高い技術で産業の新領域を開拓し、自然環境と生活環境の向上に寄与する」という当社の企業ミッションに沿ったもので、〈エバール〉に代表されるバリア素材のリーディングカンパニーとして事業の更なる拡大を図るものです。Plantic社の〈PLANTIC〉フィルムは、特殊なデンプンをベースにしており、世界的に顕在化している食品包装材料のバイオマス化というニーズに合致しています。バイオマス由来の〈PLANTIC〉フィルムは、バイオマス由来ではない〈エバール〉とは食品包装材料において補完関係にあり、Plantic社が当社グループに加わったことで、ビジネスポートフォリオが拡充できました。〈PLANTIC〉フィルムは、オーストラリアでは大手スーパーで採用されるなど普及が進んでおりますが、当社のグローバルネットワークを活用してバイオマスバリア材事業を拡大し、3年後に現在の約3倍となる年間売上高100億円を目指します。

〈PLANTIC〉▶
フィルム



Q5 〈エバール〉事業の将来像を教えてください。

当社はEVOH樹脂〈エバール〉の世界シェア65%を有するバリア材のリーディングカンパニーであると自負しておりますが、〈エバール〉事業の更なる拡大と事業領域の拡大を図ることにより、グローバルNo.1の地位を更に磐石なものとし、〈エバール〉事業の拡大として、2015年度から2017年度までの3か年の中期経営計画「GS-STEP」期間中に生産能力を30%アップすることを計画しています。〈エバール〉の食品包装用途やプラスチック製ガソリタンクといった既存用途を伸ばすのはもちろんですが、非食品・非包装用途といった新規用途への展開を加速するとともに、次世代バリア材の開発を推進し、工業用途や光学用途への展開を加速することで、事業領域の拡大を図ります。当社のコア事業である酢ピチチェーン事業の中でも〈エバール〉事業は高い成長を続けています。当社の成長ドライバー事業として、一層の事業拡大を図り、「バリア材のことならクラレに聞け」と言われるようなバリア材のソリューションを提供するバリア材カンパニーを目指します。

Q4 次世代バリア材の開発について教えてください。

次世代バリア材としては、高いガスバリア性と水蒸気バリア性をもつ〈クラリスタ〉を上市し、市場開拓を進めています。当初はレトルト食品包装材として採用が始まりましたが、現在では太陽電池といった光学用途や工業用途でも採用が始まっており、用途が拡大しています。

また外部資源を積極的に活用した開発も実施しています。2013



社会貢献活動のご紹介 ～未来に化けるジュニアジャンパー

クラレグループは、社会の一員としての責任を果たすため、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

毎年、国内の各事業所で社員ボランティアが講師やアシスタントを務め、子どもたちに化学実験を体験してもらい、化学の楽しさを知ってもらう教育活動「少年少女化学教室」、戦禍によって教育機会を奪われたアフガニスタンなどの子どもたちに、毎年、日本の小学生が使っていたランドセルに文房具や手紙を添えて贈る国際社会貢献活動「ランドセルは海を越えて」のほか、知的障がい者の自立支援、自然保護活動、文化支援活動など、「文化」「学術」「環境」「福祉」を重点領域としたさまざまな社会貢献活動を行っています。

今回は、その一例として2015年7月23日に朝日三望台シャンツェ(北海道士別市)で開催した「第1回クラレカップ ジュニアサマージャンプ朝日大会」の模様をご紹介します。

本大会は当社所属の女子スキージャンプ高梨沙羅選手の、ジュニア世代の選手が参加できる大会をより増やしていきたいという想いに応えて、当社が社会貢献活動の一貫として実施を決めたものです。当日は高梨選手もジュニアジャンパーのみなさんが楽しく競技に参加できるよう、主催者の一人として働きました。



▲「第1回クラレカップ」のTシャツを着て働く高梨選手。



▶ 当社のアクリル樹脂を使用して制作した優勝盾。

を応援!~

大会は「小学生4年生以下の部」「小学生5年生以上の部」「小学生女子の部」「中学生女子の部」「中学生の部」の5部編成で行われました。地元北海道の選手のほか、ジャンプ合宿に来ていた青森や秋田、岩手、新潟、長野県の選手たちも本大会に参加し、総勢64名の選手、関係者で場内は大いに賑わいました。前日の予報では土別市に大雨注意報が発令されるなど、開催が危ぶまれましたが、土別市を覆っていた厚い雲も選手たちの熱気に押されたのか、当日は晴天に恵まれました。中には大人顔負けのダイナミックなジャンプを披露する選手もあり、場内は一層の熱気に包まれました。

今後も、当社は未来に化けるジュニアジャンパーのみなさんを応援していきたいと考えています。

▼ジャンプ台をバックに参加選手と高梨選手とで記念撮影!



◀競技ビブスには当社CMキャラクターのアルパカのクラレちゃんが。選手と一緒に大空へジャンプ!



▶着地後、華麗にプレーキ!



2015年1-6月のクラレグループの主なニュース

●オーストラリアPlantic社を買収

バイオマス由来のバリアフィルム事業を展開する、オーストラリアのPlantic社(Plantic Technologies Limited)を買収しました。Plantic社は、バイオマス由来のバリアフィルム事業におけるグローバルリーダーです。Plantic社の〈PLANTIC〉フィルムは、バリアパッケージの分野で幅広く使用されており、豪州、北米、欧州の大手スーパーなどで生肉、加工畜肉、鮮魚や生パスタ等の包装に採用されはじめています。今後は当社のグローバルネットワークを活用して、バイオマス由来のバリア材事業を拡大し、世界的な食品の消費期限延長やロス低減に対する要求の高まりに応えていきます。

また、当社で培ってきたバリア材料の応用技術を活かして、食品包装材料以外の用途においても新たな提案が出来るシナジーの発現を目指し、世界市場におけるバリア素材の拡大・強化をいっそう加速させていきます。



〈PLANTIC〉フィルムの主な用途例

●当社社長 伊藤正明がベルギー王国より王冠勲章コマンドール章を受章

5月12日、駐日ベルギー王国大使館にて授章式が行われ、ベルギー王国シャルル・ミシェル首相より同章が授与されました。このコマンドール章は、ベルギー王冠勲章の中で、外国人の民間人が受章する勲章としては最高位のもので、当社は1999年、欧州現地法人エパールヨーロッパにて、〈エパール〉の生産を開始しました。今回の叙勲は、当社の長年にわたるベルギー王国への投資が、同国の雇用を大きく促進させたとして、その功績が評価されたことによるものです。



シャルル・ミシェル首相(右)と握手する当社社長 伊藤正明

2015年

1月

2月

3月

●欧州におけるEVOH樹脂〈エパール〉生産能力の増強について

欧州現地法人エパールヨーロッパ〈エパール〉生産能力の増強を下記概要にて決定しました。

〈エパール〉の需要は日米欧をはじめとする先進諸国が中心でしたが、新興諸国でも拡大基調にあり、安定供給体制を維持するために、生産能力の増強が必要と判断しました。

能力増強の概要

場 所	エパールヨーロッパ (ベルギー アントワープ)
増強能力	年産 +11,000トン
稼働時期	2016年末(予定)
設備投資額	約80億円

●「2015年ミラノ国際博覧会 日本館」に協賛



〈クラフレックス〉カウンタークロス

2015年5月1日から10月31日まで、イタリア・ミラノで開催される「2015年ミラノ国際博覧会」(ミラノ万博)の日本館に協賛します。ミラノ万博は、「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマに、世界148カ国・地域・国際機関が参加する国際博覧会で、来場者数は約2,000万人と見込まれています。

をご紹介します。

※記載している情報は発表日時点のものです。

●薄型高靱性セメントボードを活用したコンクリート補修工法が土木学会技術開発賞を受賞

株式会社大林組および公益財団法人鉄道総合技術研究所と共同開発した『薄型高靱性セメントボードを用いたコンクリート補修工法「スムーズボード工法」*』により、平成26年度「土木学会技術開発賞」を受賞しました。本賞は、「計画、設計、施工、または維持管理等において、創意工夫に富むと認められる技術を開発、実用化し、土木技術の発展を通じて、社会に貢献したと認められる者」に授与されるものです。本賞を受賞するのは、当社では初めてとなります。

※「スムーズボード工法」は、株式会社大林組の登録商標です。

—施工実績—



〈パワロン〉ボード



鉄道高架橋高欄の補修例

薄型高靱性セメントボード「〈パワロン〉ボード」とは

当社が開発した高強度なビニロン(PVA)繊維〈パワロン〉を使用した、薄さ・軽さ・高い靱性を併せ持つセメントボードです。(当社製品名:〈パワロン〉ボード)

〈パワロン〉ボードを埋設型枠として用いることで、コンクリートの経年劣化の原因となる中性化、海岸付近や道路の凍結防止材として使用する塩化カルシウムなどの塩害、寒冷地での凍害などの対策として効果があり、構造物の耐久性を向上させるなど、インフラの老朽化対策として社会貢献に寄与する製品です。

「スムーズボード工法」とは

当社が開発した薄型高靱性セメントボードを表面保護材・補強材に埋設型枠として使用する、コンクリート構造物の補修工法です。軽量なため従来工法のように重機がなくても施工できるほか、薄板であるため狭隙部での施工が可能で、また埋設型枠として使用できることから型枠撤去にかかる工程を省略でき、工期の短縮により利用者への影響や工事費の低減が可能となります。

共同開発を開始した2000年以来、トンネル内巻や鉄道高架橋高欄の改修、護岸補修工事等を中心に多数実績をあげており、今後も社会インフラの老朽化対策として活用が期待されます。

4月

当社は、日本食・日本食文化をテーマとした日本館のフードコート及びレストランの厨房に、業務用衛生ふきん〈クラフレックス〉カウンタークロスをはじめ、衛生的で安全・安心な食の提供をサポートする複数の不織布製品を提供します。「食」というテーマに適合した商品群を提供することで、日本の食文化の発信をサポートします。

5月

●鹿島事業所が「第39回日化協安全表彰」で安全最優秀賞を受賞

鹿島事業所(茨城県神栖市)が一般社団法人日本化学工業協会が実施する「第39回 日本化学工業協会 安全表彰」において、「安全最優秀賞」を受賞しました。この度の受賞は、鹿島事業所が「10年間無事故無災害を狙える事業所を目指した体質づくり」を目標に掲げ、クラレグループ、協力会社あわせて約630名が一体となって様々な安全活動に取り組んだ結果、2007年2月24日から現在に至る730万時間を超える休業無災害記録を継続していることが評価されたものです。

クラレグループでは、「安全はすべての礎」という理念のもと、社員の安全意識の向上を通じ、労働災害、保安事故のリスクを発見し、その発生を未然に防ぐ安全マネジメントシステムを運用して、安全で事故・災害のない職場づくりを推進しています。この受賞を契機として、より一層事故・災害の防止に努めます。



授賞式の様子

2015年度第2四半期

● 連結損益計算書の要約

(単位:億円)

科目	第2四半期*1	前第2四半期*2	増減
売上高	2,629	2,251	378
売上原価	1,815	1,559	256
売上総利益	813	692	122
販売費及び一般管理費	497	413	84
営業利益	316	278	38
営業外収益	30	21	10
営業外費用	25	24	1
経常利益	322	275	47
特別利益	3	—	3
特別損失	3	35	△32
税金等調整前四半期純利益	321	239	82
法人税、住民税及び事業税	108	92	16
法人税等調整額	△0	△12	12
少数株主損益調整前四半期純利益	213	160	53
少数株主利益又は少数株主損失	3	3	△1
四半期純利益	209	157	52

*1: 2015年1月1日～2015年6月30日 *2: 2014年1月1日～2014年6月30日

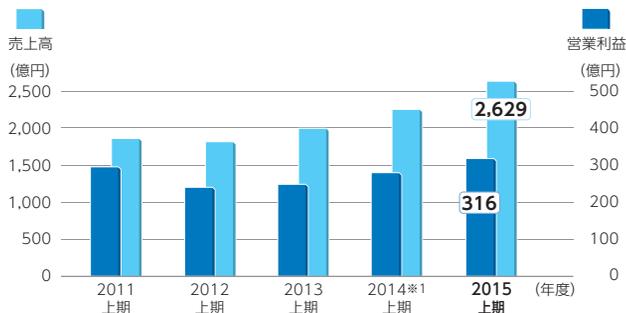
● 連結貸借対照表の要約

(単位:億円)

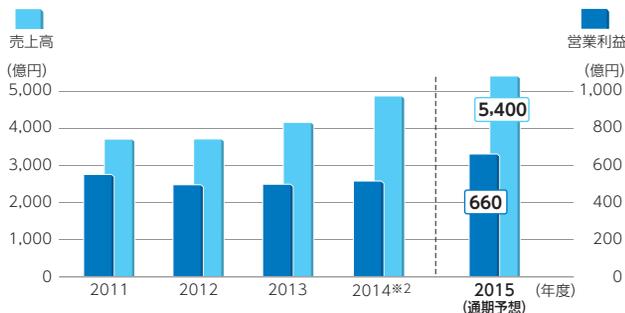
資産の部	第2四半期*1	前期*2	増減
流動資産	2,704	2,692	12
現金及び預金	267	339	△72
受取手形及び売掛金	1,056	1,050	6
有価証券	129	25	104
棚卸資産	1,075	1,071	4
繰延税金資産	55	47	9
その他	128	165	△38
貸倒引当金	△6	△6	△1
固定資産	4,173	4,223	△51
有形固定資産	2,643	2,624	19
建物及び構築物	529	527	2
機械装置及び運搬具	1,243	1,203	40
建設仮勘定	599	626	△26
その他	272	268	4
無形固定資産	895	888	6
投資その他の資産	635	711	△76
投資有価証券	495	543	△48
その他	140	168	△28
貸倒引当金	△0	△0	△0
資産合計	6,877	6,915	△39

*1: 2015年6月30日現在 *2: 2014年12月31日現在

● 上期売上高・営業利益



● 通期売上高・営業利益



※1 当社は2014年度より決算期を3月31日から12月31日に変更いたしました。比較のため、2014年上期は2014年1月～6月に補正した数値を示しております。
 ※2 2014年度通期は2014年1月～12月の12ヵ月に補正した数値を示しております。

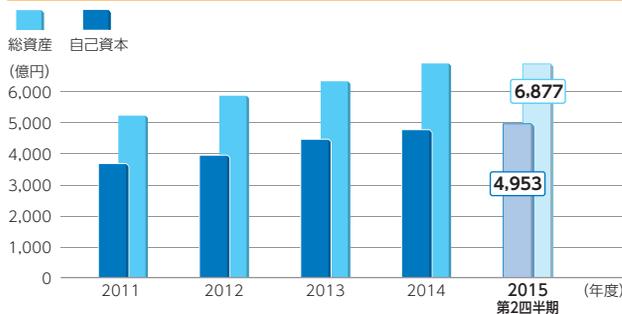
※損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

(単位:億円)

負債の部	第2四半期*1	前期*2	増減
流動負債	864	1,099	△ 235
支払手形及び買掛金	347	430	△ 83
短期借入金及びコマースペーパー	72	221	△ 149
その他	445	448	△ 3
固定負債	987	998	△ 11
社債	100	100	—
長期借入金	423	423	0
その他	464	474	△ 11
負債合計	1,851	2,097	△ 246
純資産の部	第2四半期*1	前期*2	増減
株主資本	4,420	4,236	184
資本金	890	890	—
資本剰余金	871	872	△ 0
利益剰余金	2,704	2,856	△ 152
自己株式	△ 45	△ 381	337
その他の包括利益累計額	533	512	21
その他有価証券評価差額金	127	93	35
繰延ヘッジ損益	0	1	△ 1
為替換算調整勘定	454	469	△ 14
退職給付に係る調整累計額	△ 49	△ 51	2
新株予約権	9	10	△ 1
少数株主持分	63	61	2
純資産合計	5,025	4,818	207
負債及び純資産合計	6,877	6,915	△ 39

*1: 2015年6月30日現在 *2: 2014年12月31日現在

● 総資産・自己資本



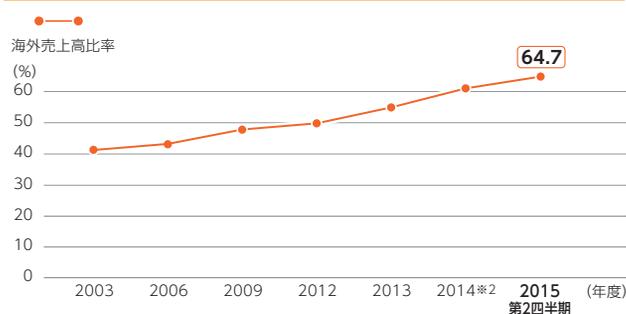
● 連結キャッシュ・フロー計算書の要約

(単位:億円)

科目	第2四半期*1
1. 営業活動によるキャッシュ・フロー	467
税金等調整前四半期純利益	321
減価償却費	216
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	10
その他営業活動による支出	△ 80
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 255
有形・無形固定資産の取得による支出	△ 212
株式買収及び事業買収・譲渡による収支	△ 45
その他投資活動による収支	3
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 179
借入金の純増減額	△ 150
配当金の支払額	△ 32
その他財務活動による収支	2
4. 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 3
5. 現金及び現金同等物の増減額	30
6. 現金及び現金同等物の期首残高	354
7. 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—
8. 現金及び現金同等物の四半期末残高	384

*1: 2015年1月1日~2015年6月30日

● 海外売上高比率推移



株式情報について

● 株式の状況

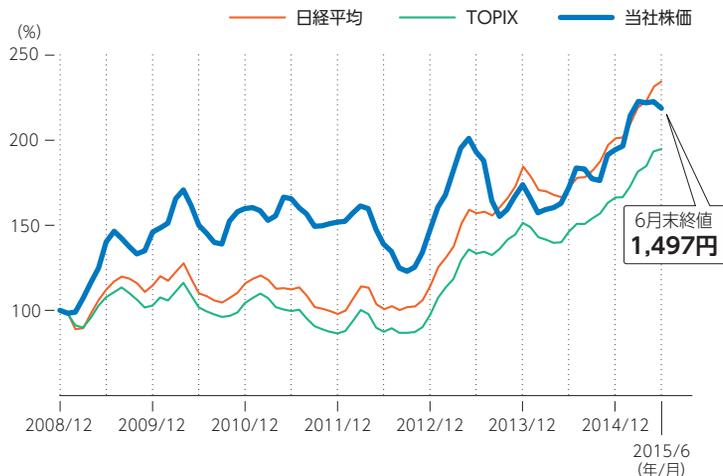
発行可能株式総数 **1,000,000,000 株**
 発行済株式の総数 **354,863,603 株**
 株主数 **45,770 名**

● 株主構成



● 当社株価と主要指標との比較

(2008年12月～2015年6月)
 2008年12月を100として、各指標の動きを指数化して比較しています。



投資家向けページのご案内

当社ホームページ内の投資家向けページでは、決算情報の提供に加え、決算説明会や株主総会の模様の動画配信などタイムリーに情報を掲出しています。
 是非ご覧ください。



株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人事務取扱場所
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) ☎ 0120-782-031
 (受付時間 土・日・祝祭日を除く9時～17時)

アンケートご協力をお願い

2015年9月25日(金)まで

「クラレ通信」をご覧くださいまして、ありがとうございます。

今後とも株主の皆様との双方向のコミュニケーションを図っていきたく思っております。つきましては、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、プレゼントをスピーディーにお届けするため、アンケートの回答を原則Web経由とさせていただきます。パソコンから以下アンケートサイトにアクセスの上、是非ご利用くださいますようお願いいたします。

ご回答いただいた方には
もれなく人工皮革
「ティレニーナ」を使用した
ブックカバー1個をプレゼント
いたします。

(株)クラレが開発した日本製人工皮革「ティレニーナ」は優れた吸水性を有した新素材です。起毛加工により滑りやすく、やさしく手にフィットします。



文庫用 対応寸法：
縦153×横108×
厚み30mmまで対応

*色のご指定はできませんので予めご了承ください。

アンケートサイト(画面)への接続方法

Yahoo! JAPAN®やGoogle®などの検索エンジンからアンケートサイトを呼び出します。

株主ひろば

または、下記URLを入力ください。

kabuhiro.jp

ご回答方法



アンケートナンバー

●●●●●●●●

アンケートサイト画面中央の入力ボックスに、アンケートナンバー●●●●●●●●を入力の上、回答画面にお進みください。事前に同封の配当金計算書・配当金領収証をお手元にご準備ください。

操作方法などの問い合わせ先

株式会社クラレ IR・広報部
電話：03-6701-1075
平日 9:00-12:00/13:00-17:30 土日祝 休み

* インターネットをご利用できない場合は、添付のアンケートはがきによるご回答も受けいたします。なお、はがきによるご回答の場合、プレゼントの発送が遅れる場合がございます。予めご了承ください。



このアンケートは、株式会社アイ・アール ジャパン(IR支援会社)が運営するWebアンケートシステム「株主ひろば」を利用して実施しています。



クラレは世界的な社会的責任投資(SRI) 株式指数の構成銘柄に選定されています。

社名 株式会社 クラレ

英文社名 KURARAY CO., LTD.

設立 1926(大正15)年6月24日

資本金 890億円(2015年6月30日現在)

東京本社 〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3
大手センタービル
TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005

大阪本社 〒530-8611 大阪市北区角田町8-1
梅田阪急ビル オフィスタワー
TEL(06)7635-1000 FAX(06)7635-1005

ホームページ <http://www.kuraray.co.jp>

役員 (2015年6月30日現在)

代表取締役会長	伊藤 文大
代表取締役社長	伊藤 正明
代表取締役・専務執行役員	山下 節生
取締役・専務執行役員	藤井 信雄
取締役・常務執行役員	天雲 一裕
取締役・常務執行役員	雪吉 邦夫
取締役・常務執行役員	松山 貞秋
取締役・常務執行役員	久川 和彦
取締役・常務執行役員	古宮 行淳
取締役・常務執行役員	早瀬 博章
取締役(社外取締役)	塩谷 隆英
取締役(社外取締役)	浜口 友一
常勤監査役	蛭川 洋一
常勤監査役	村上 敬司
監査役(社外監査役)	藤本 美枝
監査役(社外監査役)	岡本 吉光
監査役(社外監査役)	名倉 三喜男

クラレグループの主な事業

ビニルアセテート	ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、EVOH樹脂・フィルムの製造・販売
イソプレン	イソプレン系化学品、ポリアミド樹脂の製造・販売
機能材料	メタクリル樹脂、メディカル関連製品、人工皮革の製造・販売
繊維	ビニロン、不織布、面ファスナー、ポリエステル繊維の製造・販売
トレーディング	繊維製品、樹脂、化学品の輸出入・卸売
その他	炭素材、水処理用高機能膜・システムの製造・販売、エンジニアリング事業

執行役員	マティアス グトヴァイラー (Matthias Gutweiler)
執行役員	小野寺 正憲
執行役員	中山 和大
執行役員	阿部 憲一
執行役員	佐野 義正
執行役員	ジョージ アブディ (George Avdey)
執行役員	豊浦 仁
執行役員	山根 幸則
執行役員	大村 章
執行役員	柏村 次史
執行役員	中島 多加志
執行役員	林 洋秀

(注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
2.この冊子に記載の()をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。

【表紙の写真について】 当社グループ社員が撮影した写真を表紙に使用しています。

所 属：Cenapro Chemical Corporation
名 前：時長 則厚
タイトル：別世界
撮影場所：フィリピン セブ州 マクタン島沖 ヒルトガン海洋保護区
(GILUTUNGAN MARINE SANCTUARY)

撮影者のコメント：南国の海の中は別世界です。透明度も高く、シュノーケリングでもたくさんの魚たちと会えますよ。